

第2号の刊行によせて

金沢城は、近世を通じ、北陸の政治・経済・文化の中心として、また都市金沢の核として、幾多の変遷をたどりながらも、時代を超えて生き続けてきた、本県のかげがえのない文化遺産であります。

金沢城研究調査室では、金沢城の実態を解明するため平成14年度から絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）などの総合的な調査研究に着手し、本年度は、金沢城絵図の分類・編年、御造営方日並記（上巻）の翻刻・刊行、尾崎神社拝殿及び幣殿の実測図作成、あるいは戸室石切丁場の調査での石材採掘状況の復元など着実に調査研究を進めており、その成果については、ホームページ、パンフレット、記者発表、展示など、様々な媒体を通していち早い情報提供に努めているところであります。

本書は、これらの成果を専門的にとりまとめたもので、本号では、金沢城調査研究専門委員会委員の方々からの城内石垣の変遷、加賀藩御大工の系譜、金谷御殿の増改築に関する論文を掲載できました。また、研究調査室が平成14年度より進めておりました金沢城全域絵図の分類・編年に関する基礎的成果も合わせ掲載いたしました。

また、金沢城につきましては、県内外から高い関心が寄せられており、昨年刊行した創刊号についてもご好評いただき、本年度から、より多くの皆様に手にしていただけるよう、刊行部数を増やしております。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず、玉稿をお寄せ下さった専門委員の方々に感謝申し上げますとともに、本書が、県民の皆様と一体となって、金沢城の保存と活用を考える手掛かりとなり、さらには、広く国内の近世城郭史研究の進展に資することができれば幸いと存じます。

平成16年3月

石川県教育委員会
教育長 山 岸 勇